

## 2022 年度実施報告書

学校名

糸満市立糸満中学校

採択活動名

海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. マリン体験・ビーチクリーン	1 学年	海人科
2. 海洋教育講話「海の環境について考えよう」	1 学年	海人科
3. ジョン万次郎講演会	2 学年	海人科
4. 糸満ハーレー聖地巡礼ウォークラリー	全学年	海人科
5. 海洋教育講話「大規模災害から学ぶ」(東日本大震災からの教訓)	3 学年	海人科
6. 海洋教育講話「糸満ハーレー講話」	2・3 学年	海人科
7. 探究活動(制作、調べ学習、ICT 活用)	全学年	海人科
8. 発表会	全学年	海人科
9. 海洋教育講演会「生きる」講話・ワークショップ・見学	3 学年	海人科
10. NIE 特設授業：海洋教育「私たちでもできること」 ～新聞記事を通して防災・減災を考える～	3 学年	海人科

取り組みの概要

教科「海人科」(うみんちゅか)として 15 時間(総合的な学習の時間から 10 時間、学級活動から 5 時間)で実施する。

○共通

- ・糸満ハーレー聖地巡礼ウォークラリー
- ・はがき新聞 (ウォークラリー時の報告新聞)
- ・「糸満ハーレーについて学ぼう」実施報告パネル展 糸満市場「いとまーる」1 階 6/20～6/27
- ・探究活動(制作、調べ学習、ICT 活用)
- ・発表会
- ・県中学校総合文化祭 防災新聞ハガキ新聞作品展示

## ○1 学年テーマ：環境と海洋教育

- ・マリン体験
- ・海洋教育講話「海の環境について考えよう」 講師：大嶺由紀教諭（沖縄水産）



## ○2 学年テーマ：地域と海洋教育

- ・ジョン万次郎講演会 講師：神谷良昌 氏
- ・海洋教育講話「糸満ハーレー講話」 講師：与那嶺和直 氏
- ・海と観光、産業について調べ学習



## ○3 学年テーマ：生き方と海洋教育

- ・海洋教育講演会「生きる」講話・ワークショップ・見学  
講師：一般社団法人災害プラネットフォームおきなわ 共同代表理事 有村博勝 氏
- ・海洋教育講話「大規模災害から学ぶ」（東日本大震災からの教訓）オンライン  
講師：災害 NGO 結 代表 前原士武 氏（糸満市出身）※現在、福島県南相馬市で災害ボランティア活動中
- ・海洋教育講話「糸満ハーレー講話」 講師：与那嶺和直 氏
- ・防災新聞作り
- ・NIE 特設授業：海洋教育「生きる」私たちでもできること～新聞記事を通して防災・減災を考える～



ワークショップ

ウォークラリー

オンライン講話

防災新聞発表会

## 2. 学校関係者評価

学校運営協議会で、海洋教育に関する学校行事（糸満ハーレー講演会、糸満ハーレー聖地巡礼ウォークラリー、防災キャンプ、漁港清掃など海洋教育に係る行事）についての意見をいただいた。地域で協力していただけることや提案など地域目線での意見をうかがうことができた。

また、海洋教育の取組が地域の後継者を育てることに繋がっているため、今後も積極的に地域行事に参加し、地域の伝統文化について学んでほしいとの意見をいただいた。

# 自己評価書

学校名 沖縄県糸満市立糸満中学校  
 活動名 令和4年度 「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」  
 評価者 大城 直之

評価実施日 2023年3月24日

評価視点毎の評価 (当てはまる項目のBOXにチェックをつけ、必要に応じてコメントを記入してください。)		達成度
<b>【妥当性】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 今回のテーマと目標の設定は有効でしたか？ <b>【コメント欄】</b> 設定したテーマに沿って学習を行うことができた。海洋教育を通して地域の海を知り、生徒が課題意識をもって学習に取り組むことができた。	<b>【成果】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 期待した成果は得られましたか？ <b>【コメント欄】</b> 海への関心が高まり、海という視点を通して生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力を高めることができた。	
<input checked="" type="checkbox"/> 学習内容の分量は適切でしたか？(無理のない目標・計画でしたか？) <b>【コメント欄】</b> 体験活動と探究活動を実施し、分量は適切であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習目標と本活動との関連性は明確でしたか？ <b>【コメント欄】</b> 各教科の関連する項目や、SDGs14番「海の豊かさを守ろう」と関連づけることで効果的な活動ができた。	
<input checked="" type="checkbox"/> 内容は対象児童・生徒のレベルに適切でしたか？ <b>【コメント欄】</b> 各学年に応じて、学習内容や分量は生徒の現状に合ったものであり適切であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 活動は児童・生徒の海洋への関心を高める契機となりましたか？ <b>【コメント欄】</b> 各学年とも体験活動、探求活動を通して取り組んだので、生徒の海洋への関心の高まりが見られた。	
<b>【有効性】</b> <input type="checkbox"/> 内容は計画通りに実施されましたか？ <b>【コメント欄】</b> 1・3学年は天候不良の影響もあり、計画が変更されたものがあつた。2学年は計画通りに実施することができた。	<b>【持続性】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 活動に必要なノウハウ・知見・技術等が教員間で共有されていますか？ <b>【コメント欄】</b> 各学年の海洋教育担当を中心に情報共有を図り、海洋教育を推進することができた。	<b>その他コメント・感想</b> ○教科横断的な視点に立ち海洋教育を推進することができた。 ○SDGsやNIEの視点を取り入れ、各教科においても海洋教育に取り組むことができた。 ○外部機関との連携、特に協力要請をする時は、職員間の情報共有が重要である。 ○新型コロナ禍において、ICTの活用し、オンライン、タブレット端末を活用して海洋教育を推進することができた。
<input checked="" type="checkbox"/> 協力要請した外部機関との連絡体制や指導内容は良好/適切でしたか？ <b>【コメント欄】</b> 各関係機関に継続して協力要請をしているため、協力が得られやすく、連絡体制や指導内容は良好であった。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習内容や成果物が適切に活用される(見込み)がありますか？ <b>【コメント欄】</b> 学校内で学習内容の報告及び展示を実施。成果方向今年度の学習内容を、糸満市役所のエントランスにて展示・活用する。	
<input checked="" type="checkbox"/> 助成事業に対する地域や保護者からの理解は得られましたか？ 実施後に家庭や地域への知識や情報の広がりが見られますか？ <b>【コメント欄】</b> 三者面談期間中、廊下等に成果物を展示し、保護者へ発信する機会とすることができた。	<input checked="" type="checkbox"/> 学習した内容を継続・応用する仕組みは考慮されていますか？ <b>【コメント欄】</b> 次年度も今年度取り組んだ活動をもとに、学習活動を行う計画を検討している。	
<b>【効率性】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 学習活動の実施時期は適切でしたか？ <b>【コメント欄】</b> 新型コロナの影響で、予定していた時期に実施できなかった学習もあつた。時期をずらして実施した。	<b>【信頼性】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 担当教員は学習内容について十分な知識・技術を有していましたか？ <b>【コメント欄】</b> 担当教員は一人だけでなく、複数の教員が担当し連携しながら行えた。	
<input checked="" type="checkbox"/> 物資・資金・派遣講師(人員)の規模や質は適切でしたか？ <b>【コメント欄】</b> 各学年ともに「外部講師等の人材を活用することができた。	<input checked="" type="checkbox"/> 実施に当たり、十分な体制が整えられましたか？(教員間連携、安全対策、チェック体制) <b>【コメント欄】</b> 職員間で安全対策に力を入れ外部機関とも連絡調整に務め、活動の協力体制を整えることができた。	
<input checked="" type="checkbox"/> 実施期間の設定は適切でしたか？(計画内容を設定期間内に終えることができましたか？) <b>【コメント欄】</b> 実施期間内に活動内容をすべて終えることができた。	<input checked="" type="checkbox"/> 実施内容について外部公表・発信・共有していますか？ <b>【コメント欄】</b> 講演会やウォークラリー等については新聞記事として取り上げられ、外部へ発信することができた。	